

## 令和5年度 第2回安芸市森林整備促進協議会 議事録

1. 開催日時 令和5年11月30日(木) 午後1時30分～午後3時30分
2. 開催場所 高知東部森林組合安芸支所2階会議室
3. 議事日程
  - 1 分科会等の協議内容について
  - 2 ビジョンの構成案について
  - 3 ビジョンの名称等について(グループワーク)

### 4. 会議の内容

(事務局：農林課長)

ただ今から、令和5年度第2回安芸市森林整備促進協議会を開催させていただきます。

皆様には、大変お忙しい中、本協議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日は安芸市森林・林業・木材産業振興ビジョン策定の協議を中心にお願ひしたいと考えております。

なお、本日の会議はビジョン策定の取り組みとして完成品にレポートを記録しますので会議の様子を写真撮影させていただきたいと思っておりますのでご容赦ください。

それでは、開会に際し、会長から一言、ご挨拶をお願いいたします。

(会長)

委員の皆様には、大変お忙しい中、本協議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

さて、森林・林業・木材産業施策におきましては、令和6年度から森林環境税として国民1人当たり年額1,000円が徴収されるようになることから、その用途について、今後、注目度が高まり、国民の見る目も厳しくなることが予想されます。

安芸市では、この森林環境譲与税、森林環境税を、透明性を持って活用するとともに、安芸市の森づくりの目指すべき姿を明確にすることを目的に、皆様とともに「安芸市森林・林業・木材産業振興ビジョン」の策定に取り組んでいるところであります。

この後、事務局から報告もありますが、これまでに、3つの分科会、市民参加の森づくりワークショップの開催、先進地の視察などを行ってまいりました。

本日は、ビジョンの構成案についての議論、ビジョンの名称等について議論をお願いしたいと考えています。

それでは事務局、お願いします。

(事務局：農林課林業振興係)

本協議会の議事進行につきましては、協議会の設置要綱第5条第2項の規定により会長が行いますことをご了解ください。

(議長：会長)

それではさっそく議事に入ります。

会議内容①「分科会等の協議内容について」を事務局より説明願います。

(事務局：農林課林業振興係)

それではご説明させていただきます。

第1回分科会(森づくり部会)は令和5年8月2日(水)に開催され、「ゾーニングについて」や「担い手対策、林道整備について」など、川上の課題について議論を行いました。

「林道、作業道などの開設、維持修繕が十分ではない」、「木を出すには道が絶対的に必要である」、「ゾーニングについての調査で林業利用可能な森林の客観的データは得られたが、そこまで行くための道がないと施業に取り掛かれない、まずは道の整備が必要なのではないか」といった意見がありました。

また、「要整備林については、河川環境や海への影響を考え、河川沿いの森林を優先的に扱うべきではないか。また、市街地や集落から近いような『注目されやすい場所』も優先度を高くするべき」、「奥山の要整備林に力を入れるよりは市民に近い場所を早く整備するほうがいだろう」といった議論が行われました。

担い手の問題につきましては、「担い手不足は深刻である。林業大学校の生徒が参加する就職説明会でPRするが来てはくれない。情報発信、林業の魅力を伝える取り組みが必要だと強く思う」との意見がありました。

第2回分科会(まちづくり部会)は令和5年9月28日(木)に開催され、「森づくり市民ワークショップの報告」、「東山森林公園のリニューアルについて」、「ビジョンの推進体制について」などの議題が話し合われました。

令和5年8月26日に開催した森づくり市民ワークショップには30名の市民等の参加があり、木を使った新しい商品のアイデア出しや安芸市の森林名所の探索などをグループワークで議論しました。ビジョンづくりについて知ってもらう機会になったことに加え、森づくりに関心を持つ人材の発掘にもつながるなどの成果がありました。

また、森づくり市民ワークショップで意見のあった東山森林公園のリニューアルについても議論を行いました。昭和61年度に開園してから年月が経ち、遊歩道などの老朽化も目立ってきている一方、季節の花を楽しんだり、トレッキングやトレイルランを目的に訪れる観光客も増えていて、東山森林公園の持つ魅力(ポテンシャル)は資金を投入して磨くに値するものがあると思うとの意見がありました。また、ハード面の改善だけでなく、どのように楽しむかといった活用方法もセットで提案していく必要がある、専門家を招いて改善案を探るワークショップを開催してはどうかとの意見もありました。

ビジョンの推進体制につきましては、「ビジョンは動き出してからが大切。ビジョンの実現に長期間に渡って携われる人材の確保が重要だ」といった議論が行われました。

第3回分科会(木づかい部会)は令和5年11月17日(金)に開催され、SWOT分析に

よる現状把握と課題解決について取り組んだほか、「市産材の活用について」「情報発信の重要性について」などを議論しました。

分科会の多くの時間を企業の現状分析等に用いられるビジネス手法である SWOT 分析に取り組むことに充てました。SWOT 分析は、組織の内部環境についてのプラス要因、マイナス要因と、外部環境のプラス要因、マイナス要因を洗い出して現状を把握するという手法です。

内部環境のプラス要因は「高品質な製材品が提供できる」、マイナス要因は「担い手不足」などが挙げられ、外部環境のプラス要因は「脱炭素推進により木材の素材としての注目度が高まっている」、マイナス要因は「住宅着工数が伸びない」などが挙げられました。

また、この作業を通じて分類された各要素を掛け合わせることで戦略を立てることができないか取り組んでみました。強みである内部環境のプラス要因「製材品の品質に自信がある」と、機会である外部環境のプラス要因「市産材活用への支援策が議論されている」を掛け合わせ、小学生に市産材を活用した机をプレゼントしてはどうかという取り組み案が提案されました。また、弱みである内部環境のマイナス要因「情報発信の不足」を補い、機会である外部環境のプラス要因「若者は SNS などを使いこなし、情報収集のツールにしている状況がある」を掛け合わせ、弱みを克服して機会を活かす「SNS など、インターネット上への情報発信」に力を入れてはどうかといった取り組み案が提案されました。

特に、インターネットへの情報発信では、若者（将来の担い手）が動画をよく見ていることに注目し、森づくり・林業・木材産業の魅力を動画で発信してはどうか、協議会でやってみてはどうかといった意見がありました。

また、令和 5 年 10 月 17 日（火）には先進地視察を行いました。バイオマス発電施設の視察と本山町役場での意見交換を行い、森づくりビジョンである「土佐本山コンパクトフォレスト構想」を完成させ令和 4 年度から運用している本山町の森づくりについて学びました。

本山町のビジョンの特徴としましては、ビジョン策定委員として高校生にも参加してもらうなど未来を担う世代の意見を政策に反映させている点、「本山町フォレスター」として長期間に渡ってビジョンの実現に関わる人材を確保・育成している点などが挙げられます。

ご説明は以上となります。

（議長：会長）

分科会等の協議内容につきまして事務局より説明がありましたが、質問や補足等はありませんでしょうか。

それでは私から少し補足をいいですか？

木づかいの部会で児童に机をとの話がありましたが、これは奈半利町で実際に行うようにしています。机だけでなく、椅子とセットにして、高さとかの調整もできるようにして、児童本人が組み上げをするようにしています。6 年間使ってもらい、中学校でもそれを使ってもらいたいと考えています。

奈半利町の学校は児童数が少なく、20 セットもあれば足りませんが、安芸市は児童数も多いので、製作するキットはもっと数が必要になるでしょうから大変かもしれませんが、こういった取り組みも木材利用の一つの手ではないかなと思いました。

なお、奈半利町の学習機キットは全てヒノキ材を使っています。加工は宮大工の職人さんが行い、キットにして渡しています。森林環境譲与税の使途として良い方法だと思います。

(11 番委員)

嶺北でも同様に、自分で木の机を作るという取り組みをされていると聞いたことがあります。やはり、小さい頃から木に触れるということと、自分で作った机を使い続けるということで、その事業者の方の取り組みも地元産材を知ってもらうこと、地元の木を使うという木材利用促進につながるということになると思います。

安芸市の子供達が使う机もなかなか地元産材ではないことが多いと思うので、身近なものに地元産材を使うということ、これを機会に取り組んでみるのも面白いんじゃないかなと思いました。

(10 番委員)

小学生は人数が結構多いと多いと思うので難しいかもしれませんが、毎年安芸市で生まれる赤ちゃんは 100 人もいないと思うので、例えば生まれた赤ちゃんに木のおもちゃをプレゼントするのなら、すぐ取り組めるのかなと思いました。

(議長：会長)

木を使った学習機は、全部を木製にしなくてもいいですよ。例えば天板だけを木製にするとか。今ある机の天板だけを取り替えるなど、方法はいくつかあるように思います。

(9 番委員)

森づくりの分科会の報告がありましたが、森林の整備ということで、林道、作業道の十分な管理をしてほしいと思いました。

やはり大雨が降れば河川への土砂の流入の原因にもなります。砂防の施設もあまり機能しないことがあるかもしれません。先日、別役地域に行きましたが、倒木がすごく多く、流木もかなり見かけました。30 年災のような豪雨はあまりないかもしれませんが、もし、そのような災害が起きれば、道から起きる土砂崩れが発生するかもしれません。

林道、作業道の十分な維持修繕、管理ができるような対策をお願いしたいと思いました。

(議長：会長)

国有林道なども含めた話になるかと思います。県の林道も同じ、市の林道も同じ、それぞれ保全対策は行なっていると思います。ただ、想定外の降雨があった場合に、木が倒れ、そ

れが河川を堰き止めて、例えば影野でも橋が無くなってしまったことがあると思います。それは全て谷のふちの木が倒れて流れていったことが原因の一つだったと思います。

ただ、作業道をつけているところで傷んでいる場所はないと思います。

(9 番委員)

山の管理、やはり、しっかりと林内に光が入るように間伐作業などの森林整備をすることで、河川への土砂の流入はだいぶ違うと思います。森林の管理をしっかりとしてほしいと思いました。

先日行った別役地域では、30 年災の時の倒木や流木が川の岸辺に散乱していました。森林環境譲与税の活用ということもあると思いますので、このような災害への対策、河川沿いの森林の整備についてはしっかりやっていただきたいと思いました。

(議長：会長)

このような課題は、国有林では状況はどうでしょうか？

(13 番委員)

国有林においては、昨年、編成が済み、施業群の中で大半を占める水源かん養タイプからより規制の厳しい、山地災害防備タイプへ多くの森林を変更しています。高知県東部の山間部では急峻な地形にも関わらず、近年は作業道を付けていく間伐等の事業が多くなっていますが、山地災害防備タイプの中には間伐作業をする際でも、作業道ではなく、架線集材でしか、事業の出来ない森林を、今回の編成で多く指定しています。

このことにより、作業道を付けることで起きる災害のリスクを減らしていくことになります。

それから、高知県東部では、魚梁瀬杉に代表されるように、スギ山が多くあるわけですが、最近話題になっているスギ花粉の問題があるので、伐採後の植林においても、スギではなく別の樹種を植える、例えばヒノキを植える、あるいは花粉の少ないスギを開発するなどの取り組みを実施していきます。

それから、こちらの安芸地区におけるスギ長伐期施業は伐期が 130 年と他の計画区より長く、間伐作業を何回も繰り返し搬出していくことで、大経材を生産していく施業を行なっていく、山地災害を無くすような施業を国有林では実施していきます。

(議長：会長)

林業事務所はどうでしょうか？

(14 番委員)

基本的に、補助制度を使って作業道を開設する場合には、高知県森林作業道作設指針に基づいて勾配や排水処理などを考えた上で開設していくことになります。山が崩れるというようなことがないように作業を行なっています。

(8 番委員)

先ほど、木製学習機の話がありましたが、6年生まで使うということでしょうか？

(議長：会長)

中学校3年生まで使います。つまり9年間使うということですね。

(8 番委員)

木材利用の視点で考えると、もっと長く使ってもらえるようにするにはどのようにしたらいいかと考えていました。

また、思ったのですが、例えば、割り箸、学校の給食などの場面でも木材利用の観点から、端材を活用した割り箸を使ってもらえるなど、木を余すところなく使うような仕組みがあってもいいのではないかと思いました。

(議長：会長)

学習機はまだ試作段階ですので、まず、やってみて、またより良く変えていけたらと思って取り組んでいます。安芸市は安芸市で、方法を考えて、取り組んでみてはどうかと思っています。

(議長：会長)

他にご意見はありませんでしょうか。なければ次に進みたいと思います。

それでは、会議内容②「ビジョンの構成案について」を事務局より説明願います。

(事務局：農林課林業振興係)

それではご説明させていただきます。構成案につきましてはアジア航測株式会社に説明をお願いし、具体的なアクションプランの部分につきましては事務局よりご説明させていただきます。

《 ビジョンの構成案について資料をもとに説明 》

(議長：会長)

ビジョンの構成案や森林環境譲与税の活用につきまして説明がありましたが、質問やご意見はありませんでしょうか。

(10 番委員)

先日、市役所とアジア航測株式会社が実施した別役地域の調査に同行しまして、初めてブナ林を訪れました。

安芸市に南国土佐じゃないようなブナ林が広がっていてすごく感動しまして、これは安芸市の宝としてしっかりと発信していけたらいいなと思ったわけですが、同時に、私は大学生時代にブナ林の研究をしていましたので気がついたのですが、やはり、シカによる食害がひどいということも分かりました。

下層植生がほとんど無く、このままではブナ林の更新は難しいなと思ひまして、専門家にも写真を送って見てもらったのですが、同じように、対策が必要な状況にあるというお話でした。このブナ林を発信して、人を呼び込んでいくのであれば、その前段として、何らかの保護や対策は必要だと感じました。

他地域でも実施されていますが、例えばシカの防除ネットを設置して、そこを保護エリアに指定するなどの取り組みが必要だと思ひましたし、近くには協働の森づくりを進めている三菱商事株式会社の「三菱商事 千年の森」がありますし、社有林の間伐等の森林整備も必要ですが、折角、県外から社員の方が来られるのであれば、別役まで行って、ブナ林まで行って、例えばシカ防除ネットを設置する作業を協働で行うなどのプログラムが作れないだろうかとも思ひました。

あと、全体のテーマの設定ですが、経済、環境、社会という切り口はいいと思うのですが、この構成案はちょっと事業の分け方が分かりにくいと思ひていて、私としては、やはり最初に森づくりがあって、次に川中の木材を扱うジャンルがあって、最後にまちづくりがあるというのを大きな構造にして、それぞれ、経済的、環境的、社会的に持続可能であるということは、全てのテーマに共通する軸だと思ひますので、そのことを意識した表現になればいいと思ひました。

(議長：会長)

別役地域のブナ林は、以前、高知大学が来てプロット調査を実施したことがあります。その時にも植生を調べて、ブナの実がたくさん落ちて、せっかく萌芽してもシカが全部食べてしまうという状況です。あの場所は、かつては笹も多かったです。

(10 番委員)

笹は一斉開花で枯れたのではなくて、食害で無くなったのですか？

(議長：会長)

食害ですね。ほとんど食害の影響です。

(10 番委員)

ゾーニングの検討も進んでいていいと思って説明を聞いていました。

やはり河川との関係を考えてゾーニングが安芸市らしさにつながるだろうというお話がありましたが、その時の具体的な方法論というか、例えば河川沿いは針広混交林に誘導していったほうがいいとか、作業道を開設する際も幅員を制限するとか、具体的な方法論は見えてきていますか。

(アジア航測株式会社)

ゾーニングの部分は技術的なことですので、安芸市ならではというよりは、これまでの林業の分野ですとか、河川事業で蓄積されてきたノウハウを反映させていく部分であると考えています。

河川沿いに緩衝林を設けるとか、土砂流出に配慮した森林施業ですとか、道作りが河川沿いでどうかという点につきましては、崩れにくい作業道の開設技術を安芸市の林業事業者の方はお持ちだと事業者ヒアリングで教えていただいたので、そのような技術を活かした道づくりをするとか、そのような考え方をまとめるところまでは出来ると思います。

ただ、具体的な基準のようなものは実際に事業を実施する際に考えていくようになるのではないかと考えています。

(10 番委員)

考え方の部分だけでも明文化するべきだと思います。

(議長：会長)

林業事業者が作業道をつける際は単価も高くないので、範囲内での開設をするしかない現状があります。林道などの規模になると林業事業者では工事が難しく、土木業者に開設してもらおうようになると思います。

(6 番委員)

このビジョン策定は、案が固まったら主導は市がするのですか？財源についても、取り組みをするのに全てボランティアというわけにはいかないですね。

(事務局：農林課林業振興係)

事業実施の財源としましては、一つには森林環境譲与税があります。

また、ビジョンの目的としましては、安芸市が目指す森づくりについて全てを書き切って、

そこから具体的な取り組みを立ち上げていく、方向性を定めることが大きな目的の一つになります。

(6 番委員)

全ての取り組みを最初からしっかり作り込むのは難しいかもしれません。それより、方向性を決定して具体化の議論は続けつつ、同時に、取り掛かれる事業については着手していったらどうでしょうか。

ビジョンが完成することが大切ですが、少しでも早く取り組みを始められるといいと思います。実施しながらでも改善はできると思いますので。

(事務局：農林課林業振興係)

委員のお話いただいた通りだと考えています。

ビジョンの完成を目指すのと並行して、優先度の高い取り組みは森林環境譲与税を活用しながら令和6年度より着手していきたいと考えています。

(11 番委員)

2つ意見があります。

1つは、「安芸市らしいビジョンを作る」ということを大切にしながら第1回協議会から議論を進めてきていますが、まだ、どこが「安芸市らしいのか」がはっきりとは見えていないように思います。

現段階で、どの部分が安芸市らしいのか教えていただきたいと思います。今まで議論してきた中で、私が感じているのは、流域を守るような森林整備であるとか、「源流」という言葉も今まで聞くことがなかったですし、安芸市民にとってこの言葉は安芸市らしいですし、新しい言葉だと思ってもっとこれを広めていきたいと思います。

あと、3つのテーマの一つである「まちづくり」の中にある、「森林・林業・木材産業のイメージの刷新」も、私たちがここでの議論に関わらせてもらうようになるまでは森というものが遠かったという意味で、イメージが変わることを市民の方に発信していく、いいメッセージだと思います。

改めてということになりますが、ビジョンにおける安芸市らしさについて教えていただきたいです。

(事務局：農林課林業振興係)

ビジョンには安芸市らしさが必要だという考えを大切にしながら議論してきていただいています。完成まで引き続き、「安芸市らしさとは」ということを考えながら作業を進めてまいりたいと思っていますが、現段階までに明確になってきている「安芸市らしさ」につきましても、まず、地形的な特徴が挙げられます。河川の原水域でありますブナ林のある別役

地域（伊尾木川の原水域）から始まって太平洋まで水が流れている、それが一つの市の中に取っているということが特徴ですし、その多様な環境に関わる多くの産業がある、それら全てに通じるビジョンにしましょうという点は、例えば、視察に訪れた本山町とは違いがあると思います。これが安芸市らしさになると思います。

また、特に、まちづくり部会で議論していただいた部分になりますが、ビジョンは第一には産業振興が絶対に大切なのですが、それだけにとどまらず、森づくりに関わる人や取り組みを増やしていく、次世代に森づくりをつなげていく、そのための項目が多く挙げられていますし、各取り組みを実行してビジョンを具体化させていけば、安芸市らしさが見えてくるのではないだろうかとも思います。

（アジア航測株式会社）

私のご説明に不足があって、安芸市らしさが分かりにくいように感じられたかもしれません。申し訳ありません。

今、源流というお話がありましたが、3つのテーマの一つの「森づくり」の中に、生物多様性保全のための森づくり、これは8月に開催しました森づくり市民ワークショップで出た意見をもとにしたものになりますが、この中で、「源流の森づくり、別役ブナ林の整備」を項目化しています。安芸市の宝としてこの源流域の森林整備促進を実現していきたいと考えて構成案を作成しています。

それと、流域という考え方について、まだ情報等が十分ではないですので、是非、このビジョンで、専門家と連携した調査・研究を行い、計画期間内で前進していければと考えています。その取り組みの具体的な方法としましては、環境省が進めています「自然共生サイト」への登録を目指すということを考えています。

こういった部分は、流域、源流といった言葉からの具体的な事業として何をするかということになりますので、安芸市のビジョンの特徴の一つになるのではないかと考えています。

（11番委員）

ありがとうございます。イメージがより湧きました。ありがとうございます。

2つ目の意見ですが、私はこの場に関わらせてもらって、自分の役割として、森でのアクティビティーを増やして行って観光客の方とか、外国から来た方が楽しめる仕組みを増やしていけるといいなという思いがあって関わらせていただいています。今回のアクションプラン案を見て、「木づかい」として分類されている内容の中には担い手対策とか新規就業者への支援が入っていますが、まちづくりの中で、森林ガイドとかを将来的にやったり、体験プログラムを実施するような人材をきちんと育てることも必要だなと思いますので、そこをもう少し、例えば地域おこし協力隊の制度も活用して、森林アクティビティーを仕事にして独立できるようにするとか、担い手対策をすることも入れて欲しいなと思いました。

(議長：会長)

森林ガイドというのは？

(11 番委員)

実際に、参加者を森に案内して、そのガイドで生計を立てるようなプロガイドをイメージしています。森に関わる体験を請け負えるような人材ですね。

(議長：会長)

山岳ガイドのような感じですか？

(11 番委員)

そうです。

(議長：会長)

私が別役ブナ林の案内をしていた頃に思ったのは、現地まで行くのにかかる時間、とても遠いでしょう。道も良くないし。それがあから環境が保全されているという側面もあると思いますが、アクセスの悪さは課題だと思います。

(11 番委員)

そうですね。この前、ビジョンのための現地調査に同行させていただいた時も、2 時間以上かかったと思います。もし、一般の方が行けるようにするには中間地点で宿泊というのもアイデアの一つではないでしょうか。

先ほどお話した森林ガイドはあまり山に深く入らないものも想定していました。ブナ林保護のためには、あまり人が多く入ることも逆に問題になるだろうと思いますし、もっと市民生活に身近な、例えば東山森林公園などをガイドができる人で、森のアクティビティーを行えるような人材も必要で、山を案内する山岳ガイドも含め、そのような人が市外から来てくれるでもいいと思います。

(議長：会長)

伊尾木洞と一緒に、セットにしてガイドできるともっといいですね。

(2 番委員)

理念についてですが、森づくりが一番だという意見もありましたが、やっぱり、安芸市のビジョンで一番大事なものは経済だと思います。

経済の部分をしっかり対応しないと環境の取り組みも進まないと思います。経済、そして環境と。このアクションプラン案ではその経済面が少し弱いと思います。もっと地域の経済

を発展させられるような大きな取り組みもあっていいのではないのでしょうか。

議論を続けて、やっぱり難しいとなれば、その時はそれでやむを得ないでしょうが、とりあえずビジョンとして盛り込んでもらいたいのは、「木づかい」の中の木質資源利用促進の項目で、バイオマス資源の活用方法の一つとして発電などにも木材を活用できないか検討するとしてはどうでしょうか。木材の利用促進としてです。

先日、視察に行った本山町の取り組みを見ると、地域の資源である木材を利用して発電をしていました。同じことは難しいと思いますが、木材の有効活用の方法として検討してみると、もう少し経済も活性化するのではないのでしょうか。

(議長：会長)

バイオマス発電をするには、木材を集めることに課題があります。その課題を解決しないと、発電という部分では赤字になるかもしれません。

(2番委員)

確かに発電施設となると場所の問題もあります。加えて、発電だけでは採算が合わないの、作業の中で発生する熱を有効活用する、お金に変える工夫が必要になると思います。

そのように、課題は多いですが地域の活性化につながる可能性もありますので検討する価値はあると思います。

(議長：会長)

ビジョンとしていいですね。木質資源の有効活用はビジョンに記載すべき重要な項目だと思います。

(15番委員)

バイオマス資源の活用につきましてですが、現在、安芸市では脱炭素の取り組みということで、環境課で計画づくりに取り掛かることにしていきまして、当然、バイオマス発電であるとか太陽光発電などについての計画づくりに向けた取り組みを進めることとしています。この森づくりビジョンには、木質資源の有効活用として記載されるのはいいと思います。

(議長：会長)

他にご意見はありませんでしょうか。無いようでしたら、ビジョンの構成案につきましての協議はここまでとし、一度、5分ほど休憩を取りたいと思います。

休憩の後、3つのグループに分かれて、ビジョンの名称等の協議を行いたいと思いますのでよろしくをお願いします。

《 休憩 》

(議長：会長)

それでは、会議を再開します。

ここからは、ビジョンの名称等について議論をお願いしたいと思います。

今までビジョンの名称を仮の「安芸市森林・林業・木材産業振興ビジョン」として進めてきましたが、議論を重ねる中で、安芸市の森づくりが目指す姿や、解決すべき課題などが明確になってきたかと思えます。

それらを一つにまとめた名称、副題などを議論したいと思います。

では、議論の前に、考えを進める参考に、8月に行いました森づくり市民ワークショップで使用したビジョン策定の紹介動画を見たいと思います。

事務局、お願いします。

### 《 動画を視聴 》

(議長：会長)

それでは、今の動画も参考にしながら各グループで意見交換をお願いしたいと思います。なお、既に、10番委員からビジョンの名称案等についての提案がありますので、ご紹介・ご説明をお願いできますでしょうか。

(10番委員)

僭越ながら、名称等につきましてのご提案をさせていただきます。

まちづくり部会でも、どのような名称だったらいいだろうねというような話し合いをしまして、皆様の意見とか、これまでの議論を参考にしながら考えてみました。

まず、ビジョンの名称をどのようなものにするかということですが、先ほどから議論しています「安芸市らしさ」が伝わること、そして、どのようなビジョンなのかが一言で分かるものを考えてみまして、「安芸市流域森づくり構想」というのはどうかなと思いました。

全て日本語で、しかも「流域」という2文字でどのようなビジョンなのかが分かるようにシンプルに考えてみました。この「流域」という言葉によって源流の森から、まち、海まで、あるいは川上から川下までをつなげて、そのつながりを活かしたビジョンであるという特徴を表現できないかなと思っています。

流域という言葉の響きに色々な印象をお持ちの方がいらっしゃると思いますが、一つ、名称案としてどうかなと思っております。

また、ビジョンの名称に加えて、何か分かりやすいスローガン、このビジョンのキャッチフレーズみたいなものですが、私からは、英語にはなるのですが、「Blue Forest, Blue Ocean (ブルーフォレスト、ブルーオーシャン)」というものをご提案させていただきたいと思えます。

これは色んな意味を含んでいまして、No-Music, No-Life (ノーミュージック、ノーライフ)

のようにリズムも含んでいるのですが、森が青々とすれば、海も青くなる、森が良くなれば海も、まち全体も良くなるという想いを込めていますし、先ほどと同じように安芸市が森から海までつながるまちであること、森が豊かな環境や産業、経済を含めた全ての源であることを表現しています。

それから、ブルーオーシャンという言葉は経済用語になるのですが、レッドオーシャンはライバルが多く競争が激しい市場という意味なのに対して、ブルーオーシャンは競合がない、無限の可能性がある伸びていく市場という意味があります。その経済の面も含めて、安芸市がしっかりと森の価値を活かしていけば、どこにも負けない素敵なまちになるのではないかなという意味を込めています。

あと、普通、フォレスト（森）だとグリーンという表現が多いと思いますが、なぜブルーにしたかと言いますと、やはり、水の流れて流域がつながっていることの表現として水をイメージする色にしたことと、誠実さとかクリーンなイメージがブルーという色にはありますことから選びました。それから、今までの安芸市のカラー（色）は何があったかなと思いついた時に、紫色が多いなという印象でして、ナスの紫、ナスのまちだということであったり、その他にも、タイガースタウンやユズの色として黄色が使われたり、三菱さんの色は赤といったようなイメージがありますが、それらとはまた違った新しいカラーの安芸を表現していきたいと思いました。

また、今回、英語にしましたが、やはり世界視野で考えて、世界に安芸市を発信していこうということで、あえて英語で考えた方がいいのではないかなと思いついて、いかがでしょうか、「Blue Forest,Blue Ocean」、結構かっこいいんじゃないかなと思いついて、参考にさせていただけたらと思います。

それに加えて、この後のグループワークで議論する項目の一つ、理念になる、文章で書く部分ですが、日本語で、一行程度の短い文章で安芸市の森づくりが目指すことを盛り込んでここに書き込む感じかなと思います。

それから、ビジョンの名称とは別の提案になるのですが、ビジョンができた後に、これをビジュアルで表現して、どんどん発信して、先ほどの動画の最後にもありました「もっと知ってほしい」という言葉にも重なりますが、発信していくためには、やはりデザインの力が必要だと思います。例えば、先ほどのスローガンが、もし「Blue Forest,Blue Ocean」に決まりましたら、色やフォントをしっかりと設計して、ロゴとして成立するようデザインしたいと思います。また、文字だけでは親しみやすさが無いので、例えば、キャラクターを登場させてはどうかと思いついて、私が簡単に描いてみたのですが、安芸市なので「虎」が親しみやすいかなと思いついて、森と海のつながりを表現するグリーンとブルーの虎ちゃんがおったら子供達も気にしてくれるかなと思いますし、虎というのは森林がないと生きていけない生き物ですので、生物多様性の象徴としても相応しいかなと思っています。

今日はそこまで話ができないかもしれませんが、ロゴができていけば、このようにグッズを作って安芸市の森づくりビジョンを発信したり、みなさんが現場で着ている作業着にも

このロゴを付けていただいたり、会社の車や建築現場の垂れ幕にもどんどんみんなで共通したメッセージを発信していけたらいいと思いますし、キャラクターに関しましては、この資料は私が手描きで描いただけですので、もう少し色んな人が作ってくれたらいいかなと思います。場面によって、例えば可愛い感じのデザインがあってもいいですし、スマホのシールを作るような場合は、男性も使いやすいようにカッコいいデザインの虎にしてもいいですし、広がりがあればいいかなと思っています。

これが私からの提案です。

私の、一つの意見ですので、これから皆さんで話し合っていて、やっぱり虎じゃなくてクマがいいとか、いろいろなご意見がいただけたらと思います。

(議長：会長)

ありがとうございました。

それでは、今ご提案のあった名称案等も参考にしながら、新たな名称案等を考えていただきたいと思います。各グループでの議論をお願いします。

#### 《 グループワーク 》

(議長：会長)

それでは、各グループの意見を発表していただきたいと思います。

(森づくり部会)

ビジョンの名称、スローガン、コアメッセージは 10 番委員のご提案に賛同いたします。とても素晴らしいと思います。ビジョンとしましては、「美味しい空気を守る」「安芸市版 SDGs」といったアイデアは出ましたが、まだまとまっていません。

(木づかい部会)

ビジョンの名称につきましては 10 番委員のご提案にみなさん賛成でした。非常に分かりやすく、「流域」という言葉にインパクトがあり、とてもいいと思います。スローガンにつきましても異論はなく、それがいいだろうとの結論でした。

理念に関する部分ですが、「森、里、川をつなげたい」という意見しか出ておりません。5 年、10 年という計画期間の計画ですので、この大きな目標に向かって、大切になってくるのは実施項目ですので、キーワードとして、「水」、「脱炭素」、「CO2」など、環境問題に関する言葉もどこかに記載されると分かりやすいのではないかとの意見がありました。あと、日本は、2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すとしていますが、このこともビジョンに記載するべきだろうという意見がありました。森林環境譲与税を活用する意義が分かりやすくなると思います。

(まちづくり部会)

私たちの部会も、ビジョンの名称、スローガン等は 10 番委員の提案に賛同します。「流域」という言葉が安芸市をしっかりと表現していると思います。ビジョンにつきましてはまだ議論が途中ですが、今までの議論の場面で出た言葉を参考情報として資料に載せていただいているものの中の「森の恵みをまちのすみずみまで行き渡らせる」がいい案ではないかとの意見がありました。

また、Blue Forest, Blue Ocean と聞いた時に、森から海がつながっているということが分かりにくいので、ビジョンにもう少し説明を盛り込むことも必要なのではという意見がありましたし、考え方として、「森づくり」は「まちづくり」というアイデアも出ました。

(議長：会長)

各部会の発表が終わりました。今後は、それぞれのご意見を基に、策定作業の中で名称等を決定していきたいと思います。

最後に、「その他」ですが、全体を通して何かありませんか。

《 その他の意見なし 》

無ければ、これで閉会にしたいと思います。長時間にわたるご協議、ありがとうございました。

これをもちまして、令和 5 年度第 2 回安芸市森林整備促進協議会を終了いたします。